

のんびり

10 non-biri
2014 Autumn



秋田市民市場



腹へった～！うめものいっぺえ食いてえ～！！

買い物客で賑わう秋田の台所「秋田市民市場」。今回の撮影は市場内の広場が舞台です。自分よりも大きなごはんを箸を持って登場したのは、お腹を空かせた秋田っ子3兄弟！各商店の包装紙で描いた、カラフルな秋田県の上で彼らを囲むのは、秋田名物ハタハタ、北限のフグ、岩ガキ、カニ、じゅんさい、比内地鶏、サクランボ、ワラビやフキノトウ、そして、関口なす、横沢曲りねぎ、山内にんじんといった伝統野菜など、市場から集まってきた秋田のうめもの（美味しいもの）たち！豪華で巨大な食卓にありつけた子どもたちは、パクパクとごはんを食べる手が止まりません。

これらは、秋田公立美術大学の学生たちが制作してくれたもので、ごはん粒や茶碗まですべて手作りです。食材を陰で支えているのは、今号の特集にもなっている秋田市民市場のみなさんと美大生たち！

笑顔で頑張る子どもたちと、市場のみなさん、そして美大生たちが気持ちをひとつにした渾身の1枚を写真家の浅田政志が撮影しました！

その様子は「のんびり公式ウェブサイト」で公開中。また、前号から引き続き「AR」という技術を使った特別動画もあります。スマートフォンをお持ちの方は、下記をご覧の上、専用のアプリをダウンロードし、この写真をご覧ください。「AR」動画には、秋田市民市場のキャラクター「旬太くん」も登場します！

【動画の再生方法】

- ①専用の「ビューアアプリ」をダウンロード。
- ②「ビューアアプリ」を起動して設定画面に「ATFM-2509-0561」のチャンネルコードを入力。
- ③スマートフォンを上記の写真にかざすと、画面上で動画と音声自動再生！



専用の「ビューアアプリ」のダウンロードは右のQRコード、または「うごくプリント」で検索してください。
※専用の「ビューアアプリ」はiOS6.0以降、Android OS Ver4.1以降 対応



「のんびり」表紙写真ができるまで。写真家浅田政志と奮闘したその過程を公開中！ <http://non-biri.net>



のんびりしたいは
みんなのきもち
のんびりできるは
ゆたかなあかし
のんびりまつすぐ
秋田のくらし

秋田にはうまい飯とうまい酒があります。その豊かさが秋田の実直なもののづくりを支えてきました。そして同時に、秋田の人々のなかには、大らかで力強い「のんびり」精神が育まれました。そんなのんびり秋田は、右肩上がりの経済成長というゴールなきゴールに向かい、懸命に走ってきた「ニッポンにとってまるでどりを走るランナーのように映っていたかもしれせん。

けれど世の中は変わりました。順位など気にせずのんびり歩いてきたことがまさに「のんびり」となる時代がやってきました。日本人の多くは今、うまい飯が食べられてうまい酒が飲めるという当たり前の豊かさについて考え直しています。しかし秋田では昔も今も、ずっとそれが人々の暮らしの真ん中にありました。

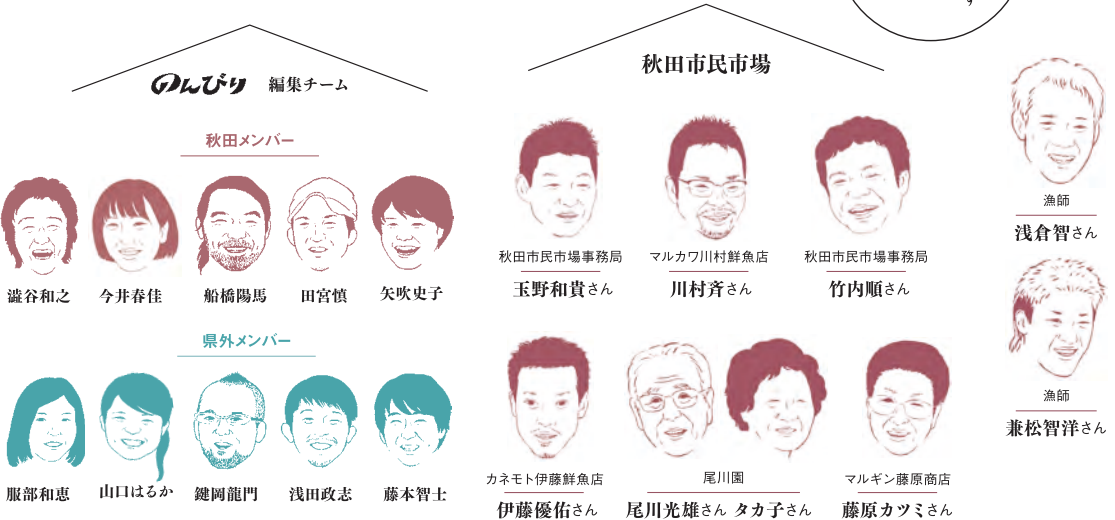
ビリだ一番だ。上だ下だ。と。相対的な価値にまどわされることなく、自分のまちを誇りに思い、他所のまちも認め合う。そんなニッポンのあたらしい「ふつう」を、秋田から提案してみようと思います。

のんびり編集部





今号の「あきたびじん」ぶつ 関連図

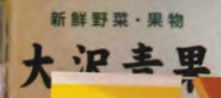


- 62 下戸式秋たんぼう 福田利之
- 57 第10回/秋田☆勝負の夏祭り〜あんたら飲み過ぎやろオース〜 non-biri akita access map
- 50 民なの謡
- 45 写真家 浅田政志の撮らずにはいられない!! 第10回/花火師
- 44 詩修 詩人が描く池田修三の言葉⑥ 江國香織/階段の途中の国
- 36 最終章 もがいた先のたしかな光
- 34 まわってみよう! のんびり流 秋田市民市場MAP
- 28 第4章 のんびりスペースの意味
- 22 第3章 チェンジするために
- 20 作っちゃいました! のんびり流 勝手手井
- 14 第2章 デリシヤス ブレックファースト
- 6 第1章 まずは市場へ
- 4 秋田市民市場に観る光
- 1 のんびりまっすぐ秋田のくらし

秋田市民市場に

観る光

取材・文 藤本智士
Text Satoshi Fujimoto
写真 浅田政志 / 鍵岡龍門 / 船橋陽馬
Photo Masashi Asada / Ryumon Kagioaka / Yoma Furubashi



秋田駅からほど近い「秋田市民市場」は、かつて秋田の台所と呼ばれ、秋田市民にとって欠かせない市場でした。と、思わず過去形で書きはじめてしまうこと、すべてがあらわれてしまっているように思いますが、今回の特集は、時代の流れにただ準じるままに、少しずつお客さんが減ってしまった秋田市民市場について考えて、行動して、苦悩して、格闘して、路頭に迷って、最後の最後に光をみたという、ひとつの経過報告です。しかし、その「光を観る」と書くのがまさに「観光」。あらゆる地方が地域固有の光を見つけようと模索するなか、この特集が、観光について考える良いきっかけになればよいなあと思っています。

地方にも都会のような明るさを！と奮闘した時代は終わり、草に残る朝露や、働く人の汗や、炊きたてのごはん粒に、陽の光がさす瞬間のかえがたい美しさに観光の光をみるこができるようになったいま、地方は多様な光で溢れています。

さあ、今回も旅のはじまりです。どうか、のんびりおらかな気持ちでお付き合いください。

藤本智士（のんびり編集長）



第1章

まずは市場へ



初めての秋田市民市場

仕事柄、日本中を旅することの多い僕にとって、旅の最大の楽しみは「食」。そこを訪れる理由が何であれ、せっかくなってきたその土地の風土(ふうど)に触れる早道はFOOD(ふうど)だというのが僕の持論です。それゆえ、各地で市場を見つけると、必ずと言っていいほど立ち寄ってしまう僕が、秋田駅からも近い秋田市民市場に行かないわけはありませんでした。例にもれず、数回目の秋田入りの際に初めてひとり秋田市民市場に行ったのですが、なぜか少し消化不良な気持ちで市場を出たことを思い出します。

秋田といえば！ 純米酒をはじめ春には山菜、秋には新米、冬にはハタハタ、きりたんぼ鍋など。山のものから海のものまで、まさに食の宝庫な秋

田のイメージから、僕は秋田市民市場にまるで食のディスプレイランドがあるかのような、過度な期待をしていたのかもしれない。実際そこにはたくさんの魅力的な食材があったのですが、どうもなんというか、気持ちが上がらない。初めて見る食材の前に、それなりに心躍ったりもするのですが、結局、ふむふむなるほど〜なんて言いながら、何も買わずに、そのまま市場を出てしまいました。

なぜだろう？

そして僕はそのまま、秋田市民市場に行かなくなってしまう。秋田市民市場は、旅先でたまに出会うようなすっきり寂れてしまった市場ではないです。確かに人が多いとは言えないけれど、それぞれのお店に新鮮で美味しそうな食材が並び、お店の人たちも元気で。ただ、青森県八戸市の「八食センター」や、山口県下関市の「唐戸市場」や、高知県中土佐町の「久礼大正町市場」など、僕が大好きな各地の市場と比べたとき



に、圧倒的に楽しさのようなのが足りない気がしました。そしてその要因は、せっかくなの食材を市場内で食べられないというところにあるのではと思いましたが、いやもちろん食べられないことにはないんですが、少なくとも気軽に食べられるようなスペースや案内はありませんでした。観光や仕事で秋田に訪れる身としては、そこはとも大きなポイントで、旅先で生鮮品を買うわけにもいかず、せっかくな美味しそうな食

材を目の前にしても、ただ指をくわえて我慢するしかなかったのです。

秋田市民市場を！

そんな秋田市民市場を『のんびり』で取りあげてみませんか？ と定例の編集会議で県庁のみなさんから提案を受けたのは春のこと。前述の気持ちを抱いていた僕は、秋田市民市場は絶対にもっと楽しい場所になるはず！ なんて気持ちのままに「その提案、乗ります！」といきおい返事したものの、取材を前にして徐々に後悔。これはなかなか難しいものに出してしまっただぞ……と、正直不安で仕方ありませんでした。『のんびり』もすでに10号目。何号か読んでくださっている方はご存じのとおり、本誌は、編集長である僕(藤本)や、写真家の浅田政治家など、県外からやってくるメンバーと、秋田で暮らす県内メンバーが一緒になっ

たアクションを起こし続けるのが本誌『のんびり』ゆえ、決してそれがすべてではないのですが、でもやはり誌面は誌面で何かわかりやすいカタチを読者のみなさんに提示したい！ と思ってしまうのが僕たちの性。しかし秋田市民市場という漠然とした対象を相手に、今回ばかりは、そんな結果を数日で作せるはずもなく、本当に『のんびり』らしい特集記事が成り立つのだろうか、と、悶々とした気持ちのまま取材初日がスタートしてしまいました。

7月11日

取材初日の朝。不安な気持ちと同調するかのよう以降る雨のなか、集合場所の秋田市民市場にやってくると、入り口前の広場ですでに撮影班の浅田くんと秋田メンバーが表紙撮影の下見をしていました。実は、不安いっぱいの特集取材の前に、せめてもと手を打ったのが今号の表紙撮影。というのも、頼りの秋田メンバーでさえ、ふだん秋田市民市場を利用することはほとんどないというのです。ならば少しでも市場のみなさんと交流し、また僕たちの本気のものづくりを感じてもらうためにも、取材最終日の14日、秋田市民市

場のみなさんと表紙撮影をすることを決めたのです。



撮影の下見を終え、あらためてのんびりチーム全員集合。まずはやっぱり体験しなきゃと市場の中へ。昭和37年に協同組合が設立したことからスタートした秋田市民市場は、平成15年に建物をリニューアル。去年で10周年を迎えたということで、それを記念した小さなフラッグが通りを飾っていました。しかし、秋田市民市場はさまざまな個人商店の集合体。一見まとまりのあるこの10周年フラッグのむこうに、それぞれの考え方や意見が渾然一体としてあることくらいは容易に想像できました。それゆえ、仮に今回の取材をとおして、素敵だと思う人に出会い、そこを起点に『のんびり』として何かアクションを起こしたとしても、それはそ

れできっと個人の考えの延長に過ぎなく、秋田市民市場について真摯に考えれば考えられるほど、安易に行動を起こすのははばかれるなあと、取材スタートにしてすでに八方ふさがりな気持ちでした。

市場を体験

雑貨通り、青果通り、塩干通り、水産通りと、通りごとに整理されたお店は全部で82店舗。そのうち水産のお店が半分を占めます。最初に歩いた青果通りでは、ちょうど梅の季節ということで、木箱に入った大量の梅を求めてやってきたお客さんで賑わってしま



た。そんな光景を眺めていると、つい自分たちも梅漬けにチャレンジしてみたくなり、たまたま目の前にあった「伊藤商店」さんに、梅漬けの作り方について聞いてみます。すると常連のお母さんまでが一緒にコッソリを教えてくださいました。さらに隣の「マルト菅原青果」さんでは、メンバー全員に県産メロンを試食させてくれたり、またその隣の「あいば商店」さんでは、お店に立って5年目という相場百恵さん（26歳）が秋田の伝統野菜について丁寧に説明してくれたり、僕の気持ちのなかの霧が少しずつ晴れていくのがわかります。さらに水産通りへ進むと、「安亀商店」さんのお母さんが魚屋さんなのに、手作りの「ミズ（山菜）のたたき」を食べさせてくれて、そこでなんだかスイッチが入ってしまったのか、そのまますぐ向かいにある「カネキ佐々木商店」さんで、堪らず岩ガキを購入。その場で剥いて食べさせてもらったことをきっかけに、せっかくだからこのまま市場で朝ごはんを食べよう！ ということに。しかし冒頭で書いたとおり、秋田市民市場では買った食材をその場で食べられる環境が整っていません。だけど今日は心強い仲間が総勢10名。例え、食べたい魚が大きな



切り身でしか売られていなくとも、のんびりチーム全員で分けられればちょうどいい分量。お箸もお醤油もないけれど、これまでのお店の方の対応に手応えを感じていた僕たちは、とにかくなんとかなるような気がしたのでした。

朝ごはんにチャレンジ

市場で朝ごはん！ そう決めた瞬間から、なんだか売り場が見違えるように輝きだします。だって、これまでひとりで作ってきたときには、あきらめるしかなかった食材たちを「食べた

い！」という気持ちのままに、ただ買えばいいのです。頭のなかで、娘と観たばかりの映画のワンシーンが流れ、思わず「悩んでたことが、嘘みたいね〜」と歌いだしそうな気持ち。取材前の不安はどこへやら、「ありの〜！ ままの〜！」と肩で風きり、筋子やららこ、がっこ（漬物）にさくらんぼまで次々と買い物が続けます。さらに、包丁さばきが惚れ惚れするほど美しい「丸八鮮魚店」さんで天然のひらめをお刺身にしてもらい、「食処 やまだ」さんという食堂でお醤油も分けていただきました！



ちょうど「丸八鮮魚店」さんの隣が空き店舗だったので、買った食材をそこでいただくことに。隣でさばいてくれたお刺身をそのまま食べられるなんて、美味しくないわけがなく、みんなで一氣にたいらげてしまいます。でも正直なところやっぱりみんなの気持ちはひとつ。ここに白いごはんさえあれば!!!

再び迷宮入り

一旦、編集部に戻ったのんびりチーム。ここであらためて秋田市民市場に

ついて話し合います。当初、不安な気持ちが大きかったけれど、実際に買物してみると意外に楽しい市場だった、というのがみんなの印象。しかし、それはあくまでもみんなと一緒に買い物したからであって、ひとり、ふたりで作ってきた場合に楽しめるかというやはり疑問が残る。というのも共通した意見でした。とにかく今回よくわかったのは、秋田市民市場はもはや市民のみなさんの市場というより、県内で飲食店を営むプロの方々のための市場だということでした。だから最初から刺身になった魚はなく、頼めばさばいてくれるもの、それをふらりとやって



きた観光客の方がお願いするのは、かなりのハードル。秋田市民市場がよりに気軽に楽しめる市場になるには、とても時間がかかるのは明らかで、また、そもそもそうなることが正確なのかどうか、いまの僕たちには判断もできませんでした。そうして僕たちは再び迷宮に迷いこんでしまいます。

漁師さんに会いに行こう

いま思えば完全に路頭に迷っていたのだと思います。とにかくこの現状を打破したく僕は「漁師さんに会いに行こう！」とみんなに提案していました。秋田市民市場の特集ながら、ただ闇雲に市場について考えるだけでなく、市



場をきっかけに、秋田の海や漁師の世界について学ばなければいけないような気が、ふとしたのです。と言いつつ、正面突破できそうにないならば、一度思い切ってまわり道してみようというものも、正直な気持ちでした。そこで早速さまざまなツテを頼って漁師さんを探してくれる秋田メンバーは本当に頼りになります。そしてアポイントをとってくれたのは、ちょうど今朝、市場で食べた岩ガキを獲っている漁師さんでした。あまりに突然の展開ゆえ、漁は午前中に出してしまったとのことながら、お話は伺えるということで、早速漁師さんのいる、にかほ市象潟の小砂川漁



右 浅倉智さん 30歳
左 兼松智洋さん 22歳

港に向かいます。

藤本 漁は何時からだったんですか？
浅倉さん（以下敬称略） 7時半頃スタートで、8時ザボン。
矢吹 今日ほどのくらい獲れました？
浅倉 今日のアワビ。一日、ひとり30





個って決まってるの。
藤本 へえ〜！ 決まってるんですね。今日はカキは？
浅倉 カキはねえ、象潟、金浦って、カキの身が入ってないってことで、ずっと止められてんですよ。
藤本 えー！ そうなんだ。そういうのって目処がたたないんですか？
浅倉 はい。でも日曜日あたりから獲る。獲ってみたいとわかんない。
矢吹 今日、秋田の市民市場に行ったんですけど。
浅倉 男鹿産だったでしょ？
矢吹 全部男鹿産で、象潟のがちょっとだけあって。
浅倉 いまはまだ、全然身入ってないよ。
矢吹 浅倉さんって何年くらいやってるんですか？
浅倉 今年で8年目かな。
矢吹 お家が漁師さんなんですか？
浅倉 いや。
藤本 どうして漁師に？
浅倉 密漁で捕まるより漁師になったほうが。
一同 あはははは(笑)。
浅倉 小学校3年生から、密漁の常習犯。ちなみにこいつは俺の3倍は潜るよ。
藤本 ほんとに!! お名前は？



潜りはひとりですよ。いいじゃ〜ん。
一同 (笑)。
矢吹 カキって、獲る量の制限あるんですよね。
兼松 最初のうちは2000個っす。
浅倉 それ150個に変えた。
藤本 毎年減ってきてるって思います？
兼松 全部減ってるっすよ。魚も全部。
藤本 減ってるってことは、ほんとに抑えないといけないってこと？
兼松 抑えても無理だよな。
藤本 そんなことじゃない？
浅倉 もう漁師の時代なんて終わったんだよ。
兼松 正直言えば、ほんと終わってるからね。
浅倉 昔の人があまりにも獲りすぎたんだよ。
兼松 後継者欲しいって漁師の上の人たち言うんですけど、たぶんそんなこと思っていないんじゃないですか。考えてないですよ。若い人のこと。
浅倉 漁師なんて未来ないよ。絶対ないよ。
兼松 ねえな。でも現状やるしかねえもんな。
浅倉 うん。漁師ってポンって船に乗ったら離れられねえんだよな。
矢吹 同世代の人たちはどのくらい

るんですか？ 20〜30代。
兼松 象潟で……。
浅倉 7人か8人だな。
藤本 ちなみに子どもが漁師になるって言ったら？
兼松 猛反対するな。俺なら。つーか、「なる」って絶対言わないと思うっす。まわりから見たら漁師かっこいいだろうけどね。立派な仕事だなんて思っすよ。
藤本 困るもん、僕たち。
兼松 漁師はいい仕事です。
藤本 いいけど、未来は……。
兼松 ない。ないから、どうしようもない。
藤本 せめてもっと高く売れるといいのかな？
浅倉 うちらからしてみれば高く売ればいいんだよな。高いに越したことはねえんだよ。
兼松 高ければ高いほうがいい。
浅倉 買うほうからしてみれば安いほうがいいんだよ。
藤本 そうだね。
浅倉 だけどスーパーで1パック100円とか200円で売ってんだよ。考えらんねえな。
兼松 まあ、そういうもんだよ。
藤本 売るほうも、もっと考えないと

兼松さん(以下敬称略) 兼松です。
矢吹 いつから潜ってるんですか？
兼松 俺は16からだから、6年目っすね。漁師。
藤本 お父さんも？
兼松 いや、とっちゃんは全然関係ないっす。
藤本 潜るだけで、釣ったりはしない？
兼松 俺らは7月から8月いっぱいまでだから、それ以外は網で魚獲ったり。
矢吹 やっててどうですか？
浅倉 潜りおもしろいよね。潜りのために漁師やってみようかなんたし。
藤本 どういうところがおもしろいの？ 網と違って。
浅倉 だって、自分ひとりで船に乗って行くじゃん。気使わなくていいじゃん。俺、底引き乗ってるんだけど、気使うでしょ。親方とかさまさまいるから。



だね。
浅倉 こっちは出荷業者がないから、魚が安い。築地に持ってく人がいない。築地に行ったら秋田県の魚なんて冷蔵庫に入ることはないの。フグぐらいか。
兼松 フグだよな。
藤本 秋田の魚も美味しい印象あるけどなあ。
浅倉 だけど秋田の魚は全国では全然。
藤本 そうなのか……。未来ないって言い切るってなかなかだね。でもそれが実感なんだよな。
浅倉 この辺では、漁師イコール貧乏なんだよ。みんなそう思っていないと思うけど。漁師は見栄っ張りだから金持ちに見えるんだよ。見栄っ張りなのでも漁師おもしろいよ。
兼松 おもしろいな。
浅倉 おもしろいよ。やりがいあるよ。特に素潜り漁は最高だ。
兼松 生活できていけるんなら辞めないよな。
浅倉 うん。漁師ほいものねえな。
兼松 漁師はいい仕事だよ。でも先が見えないのは間違いねえからな。

デリシヤス ブレック ファスト



やり残していたこと

秋田の漁業の未来を支える若い漁師ふたりに、あんなにもはっきりと「未来はない」と言われてしまつて、正直僕たちはショックを隠せませんでした。きつと聡明な彼らゆえのリップサービスもあるとは思いつつ、けれどやっぱり彼らの言葉はリアルで、とても切実なものだと僕は感じました。彼らのような漁師を市場から応援し、支えることはできないものか？ 市内へと戻る車の中で、そんな気持ちだけが大きく膨らんでいきました。

秋田市内に戻った僕たちは、夕食を食べながら今後の取材の進め方について話し合います。しかしのんびりチーム全員、思いのほか漁師のふたりの言葉をひきずってしまったのか、なかなか前向きなアイデアが出てきません。ならばここでもう一度、市場の楽しさについて考えてみよう、全員で今朝の秋田市民市場を思い返してみます。朝食を調達するべくみんなで市場をまわったあの時間、僕たちは秋田市民市場がとても楽しいと感じました。あの気持ちを確かかなものにするために足りないものはなんだろう？ そう考

えはじめた僕たちは、ひとつ大事なことを思い出します。それは、白ごはん（笑）。「そうだ！ 明日の朝は、炊飯器でごはんを炊いて市場に持っていきう！」決して現状が打開したわけではないものの、少なくともひとつやるべきことが明確になって、前を向けた僕たちは、明日に備えてひとまず解散することにします。

7月12日

朝7時、秋田市民市場集合。秋田メンバーが早起きをして炊いてきてくれたごはんを炊飯器ごと抱えて市場の中へ。ひとまず青果通り空き店舗に陣取り、雑貨通りにあるお店でお皿やお箸を調達。準備万端いよいよ食材調達タイムに入ろうかというところで、ルールを確認。実は昨日の話し合いの



なかで、せっかくならば、チーム対抗で朝ごはん対決をしようと決めていたのでした。1チーム5人ずつの2チームに分かれ、それぞれ5000円の予算で最高の朝食を用意。それを、市場の営業企画を担当する玉野和貴たまの かずかさんに審査してもらい、どちらが美味しいかを決めてもらおうという、題して「デリシヤスブレックファスト対決」。ちなみにこのネーミングはカメラマンの鍵岡くんのTシャツからとりました（笑）。



制限時間は60分。《のんチーム》と《びりチーム》というどちらも若干ネガティブなチーム名のもと、2チームに分かれて、さあいよいよ対決スタート！

以下、両チームの様子をほんの少しだけ……。



びり

浅田、矢吹、服部、田宮、船橋



のん

藤本、山口、鍵岡、今井、澁谷

高寅



藤本 これ、美味しそう。
高橋さん(以下敬称略) この安い筋子は、味的にはそんなに変わらないんですよ。作っているうちに崩れてしまったものなので。見た目だけですわね。
藤本 味見してもいいですか？
高橋 いいですよ。
藤本 お願いします。(手のひらにのせてもらう) うん。おいしい。しよっぱすぎず。これください。200グラム。あと、たらいも味見してもいいですか？
高橋 いいですよ。これはバラコといって、やわらかくてバラバラしているたらいです。
藤本 うーん。おいしい。これも200グラムください！



藤本 あのさ、愛知のひつまぶしじゃないけど、最後にお茶漬けするとかどう？でもお湯ないもんねえ。
鍵岡 隣のコンビニにあるんじゃない？
藤本 そういえばお茶屋さんあったよね？
山口 ありましたね。
藤本 行ってみたいよ。



マルシヨウ藤田商店

藤本 鯛茶漬けとかいいんじゃない？
今井 あっ。鯛ある！
藤本 これ、切ってもらえますか？
藤田さん(以下敬称略) いいですよ。切ってあげますよ。
藤本 予算が、あんまりないんです。
今井 500円前後のものを探しているんですけど、この鯛を少量にできますか？

今井 ありがとうございます！

尾川 どんなお茶にしましょう？

藤本 あとう50円しか残ってなくて……

尾川 じゃあ、これいいよ(本当は600円のお茶)。

藤本 えー！ ありがとうございます！

びり

マルイ伊藤鮮魚店

矢吹 いま私たちね、ごはん持ってきたんですよ。それに合うものを探しています。ごはんと一緒に食べる秋田の食材、何かあるかなあって。
伊藤さん(以下敬称略) ここではサザエとクロモだな。イカは青森産。
船橋 クロモ、お願いすればここで湯がいてくれますか？



進藤商店

浅田 秋田県のもの、何かありますか？
進藤さん(以下敬称略) はい！ 秋田産の私の畑のキュウリ！
一同 おー！
矢吹 魚屋さんの進藤さんの、畑のキュウリ？
浅田 これ漬けたんですか？



藤田 これで650円ならどう？ 結構サービスだよ。
藤本 ありがとうございます！ じゃあ後でもらいにきます。

尾川園

尾川さん(以下敬称略) おはようございます。



進藤 うん。これが150円で安いよ。
矢吹 いまね、ごはん炊いてきたから、ここで食べようと思ってるの。だから、切ってもらいたい。
進藤 ああ、うん。せばいいよ。まず食べてみて。
浅田 んー！ おいしい！
進藤 朝採ったキュウリもあるよ。
矢吹 ほんとに？ ほかに何か育ててるんですか？
進藤 うん。大葉でしょ、ササギ(インゲン)、ナス、トマト……。私、いつもこーやって畑で作ってるから、あげるのよ。せば、お客さん使えるべ？ お店(飲食店)の人どが、いつも買いにきてくれる



一同 おはようございます。
藤本 僕たちお茶漬けをしようと思っ……て……

今井 お茶漬けに合うものってどれですかね。

尾川 煎茶でしょうね。美味しさはいろいろあるね。

鍵岡 お茶買ったら、お湯でもらうことができますか？

尾川 あ、いいいいよ。どこさ行くの？

藤本 あ、すぐそこです。市場の中で食べるので。

尾川 あ、そうなの。じゃあ、これに



お湯沸かしてしまやる。
一同 おおー!!!
今井 すごい！ ありがとうございます。助かります。お父さん、急須も貸してもらっていいですか？
尾川 急須ね。はい、はい。これどうぞ。

人さは、ササギどがね、大根あげだりね。
矢吹 お魚屋さんやりながらも、そうやってお客さんたちと……。
進藤 そうそう。コミュニティションとりながら。そこが市場の良いところだべ？

マルト菅原青果

浅田 1000円でフルーツ盛りお願いしたよ。
一同 おー！ すごい！
菅原さん(以下敬称略) こんなんでいいでしょ？
矢吹 ありがとうございます！ すごーい！ 今日のメロンは、どこのですか？



菅原 これは若美(男鹿市)のアムスメロン。さくらんぼは三関(湯沢市)のチャーミーチェリー。
一同 ありがとうございます！

さあ、買い物タイムが終了。空き店舗スペースに美味しそうな食材が並びます。そこへ、審査をしてくれる秋田市民市場の玉野さんがやってきてくれました。

玉野 ほほー。

矢吹 ひとり1000円として5000

円の予算なかで、とれだけ美味しそうな朝ごはんを選んでくるかっていうことで、1時間くらいお店をまわってきたんですけれど。

玉野 へえー。勝負？

矢吹 そう、勝負です。

玉野 これみんな市場で買ってきたもの。

藤本 そうです。ちなみに、玉野さん朝ごはんは？

玉野 食べました。

矢吹 まだだったらぜひ一緒に食べてみてほしいです。

藤本 どっちが美味しそうかっていうのをジャッジしてもらおうっていうのもいいので。

玉野 いやー、いいんですか？ 飲み明けの私で。

一同 はい(笑)。

矢吹 では「のん」チームから。

玉野 「のんびり」だから？

矢吹 はい。「のん」チームと「びり」チームです。

藤本 では説明させてもらいますが、こちら見てのとおりのままに。



玉野 「のんびり」だから？

矢吹 はい。「のん」チームと「びり」チームです。

藤本 では説明させてもらいますが、こちら見てのとおりのままに。

びり



矢吹 それで、なんとホテルイカの花ももらいました。

藤本 美味しそう。

矢吹 そしてこちらはなんと、「進藤商店」さんという魚屋のお母さんが家で作ったキュウリのからし漬け。

藤本 それは魚屋さんで買ったの？

矢吹 はい(笑)。そして、次はこれ。「安亀商店」さん。昨日、ミズのたたきを

くださったお母さんが作っている自家製の佃煮。これ、裏メニューです。

これ、裏メニューです。

玉野 ひとり1000円として5000

円の予算なかで、とれだけ美味し

うな朝ごはんを選んでくるかっていう

ことで、1時間くらいお店をまわって

きたんですけれど。

玉野 へえー。勝負？

矢吹 そう、勝負です。

玉野 これみんな市場で買ってきたも

の。

藤本 そうです。ちなみに、玉野さん

朝ごはんは？

玉野 食べました。

矢吹 まだだったらぜひ一緒に

食べてみてほしいです。

藤本 どっちが美味しそうかっていう

のをジャッジしてもらおう

っていうのもいいので。

玉野 いやー、いいんです

か？ 飲み明けの私で。

一同 はい(笑)。

矢吹 では「のん」チーム

から。

玉野 「のんびり」だから？

矢吹 はい。「のん」チ

ームと「びり」チームです。

藤本 では説明させてもら

いますが、こちら見てのと

おり欲望のままに。

溢谷 へー。

矢吹 常連さんにしか出さ

ないという、八郎湯産のワ

カサギの佃煮。そして、ウ

ニだけが、ちょっと秋田産

じゃないんですけど、青森

産のウニです。「カネキ佐々

木商店」さんが「生きてる

ウニが今日は一番のオスス

メだ」と。秋田産を差し置

いてもみんなにこれを食

べてもらいたいと。

藤本 なるほど。

矢吹 はい。あとはやっぱ

り筋子。私たちは「加藤本

店」さんで買いました。そ

して山菜のワラビ。いま

がシーズンぎりぎりなので、

ぜひ食べたいと思って「マルギン藤原

商店」さんで切ってもらいました。で、

浅田さんの大好きなフルーツ盛りを「マ

ルト菅原青果」さんで。そして最後に、

私たちは220円だけ残ったんですけど、

それで買ったのが「桜田生花店」

さんの由利本庄産リンドウです。牛

乳瓶にアルミホイルを巻いていただい

て、即席で花瓶を作ってくださいました。

これがおもてなし朝ごはんです。



のん

一同 (笑)。

藤本 白いごはんに合うものをいろいろ

ろと選んできました。まずは「安田の

つくだ煮」さんから色とりどり7種。「高

寅」さんの筋子とたらこ。そして「富

士三」さんのお母さん手作りのオイキ

ムチ。少し野菜が足りない気がしたので、

畑のキャビア(とんぶり)も。

一同 (笑)。

藤本 そして、うちの裏コンセプトは

実は……お茶漬けです。

玉野 おー。

藤本 佃煮やらたらこやらでごはんを

食べつつ、最後に鯛茶漬けで締める、と。

そのための鯛のお刺身です。

矢吹 あらー。そっちらー！

今井 鉄瓶と急須は「尾川

園」さんからお借りしてきま

した。

玉野 尾川園さんから借りて

きたんですか？!

「のん」チーム はい。

藤本 残り550円しかなく

て。500円のお茶か600

円のお茶かで迷っていたら

「550円にしてやる」って、

600円のいいお茶を。

一同 へえー。

藤本 そしてデザートに男鹿

産のブルーベリーという、そんな「のん」

チームでした。

一同 (拍手)。

矢吹 では、「びり」チームです。私

たちは、「ほぼ100パーセント秋田産

秋田市民市場の店主オススメおもてな

し朝ごはん定食」という妙に長いテ

マです。

一同 (笑)。

矢吹 まず最初が「マルイ伊藤鮮魚店」

さんのクロモ。男鹿市の北浦産のもの

です。その場で湯がいてもらって。

藤本 へえー。

一同 おお！ わあー(拍手)。

玉野 果物がいいですね。

矢吹 二日酔い感謝。

浅田 完全にお茶漬けだと思いました。

今井 勝ったと思ってました！

玉野 いやもちろん魅力的なんです

が、朝ごはん食べてきてしまったので(笑)。

ふつうにお腹が空いていれば、こっち

(「のん」チーム)だったんですけどね。

一同 ははは！ ありがとうございます！





がっこ

茶っこ井

お茶屋さんと魚屋さんの夢の競演、あつあつの鯛茶漬け！食後は八百屋さん自慢のがっこ（漬物）で一服。



フルーツ井

秋田産のフルーツもいっぱい市場。お店にお願いしてカットしてもらえば、こんな井だってできちゃう！

※ごはんは盛り付けていません。



食べ比べ井

秋田県人はしょっぱい物が大好き！塩加減の違うたらこ、筋子がずらりと揃っているから、食べ比べも楽しめる！



市場井

市場の魅力は何といっても新鮮な食材！その日一番イキのいい海の幸を豪快にのせた、市場の顔ともいえる井！



ちゅうい
作りました！

のんびり派
勝手井

秋田市民市場を楽しみ尽くしたらこんな井ができました！貪欲な食欲さえあれば自分だけの最高のご飯にありつけるかも！?



みどり井

ツルツルのじゅんさい、ネバネバのミズ(山菜)、プチプチのとんぶり……食感が楽しい「みどり井」。その場で湯がいたり、たたいてくれたりとお店の一手間も嬉しい！



佃煮だらけ井

数十種類が所狭しと並ぶ佃煮店。目移りするけど量り売りだから、ハタハタ、ちりめん、昆布など、少しずつあれこれ食べられるのも魅力！

チェンジ
 するため



秋田市民市場最高!

「デリシャスブレックファスト対決」を終えた僕たちは、待ちに待った美味しい朝ごはんを堪能。しかしまあごはんのすすむこと! 1升炊いてきた炊飯器のごはんがきれいに空っぽ。それにしても、朝から贅沢な鯛茶漬けは本場に最高でした。さて、そんなふう



今回、市場のみなさんが意外にもこちらの要望に柔軟に対応してくれることがわかりました。すぐに食べたいから湯がいてほしい。切ってほしい。少量だけ分けてほしい。貸してほしい。僕たちの要望に答えてくれなかったお店は一軒もありませんでした。(無論、僕たちも知らずそんなふう

空き店舗

手にやってしまえることがあるはず。僕たちのなかの炎が静かに燃えはじめました。

僕たちも知らずそんなふうに対応してくれませんが) それどころか、なかだか僕たちが楽しそうにしているのを微笑ましく見守ってくれているような、そんなあたたかな空気がありました。もはや秋田市民市場に必要なものは、魅力的な商品でも立派な建物でもなく、ただお客さんとお店の方をつなぐパイプのようなもので、そこに必要なのはまさに編集やデザインだと感じました。お金はないけれど、そこはアイデアと労力でカバーしつつ、いまあるものを最大限に活かしたもののづくりをしていく。ならば僕たちの出番。そう思っただけでも、朝ごはん対決はとっても良いきっかけでした。どこまでいってもよそ者な僕たちが市場のみなさんに認めてもらうためにやれること。いや、もっと正直な言い方をすれば、何も知らないよそ者だからこそ、市場のみなさんに迷惑をかけない範囲で勝

そんな思いを共有したのんびりチームが見つめた視線の先は、現在12ある空き店舗スペースでした。一部、組合の事務局として使われているものの、基本的には椅子と長机が置かれただけの簡易休憩所か、もしくはそのほとんどが近隣店舗の荷物置き場と化していました。一応、「買ったものをここで食べてね」ということなのでしょうが、近くのお店の台車や発泡スチロールなどが無造作に置かれた空間で、座って落ちつくというのはよっぽどの常連さんでない限り無理な気がします。お客さんに「ここを自由に使ってください」



というメッセージが伝わり、また市場のみなさんにも、このスペースは関係者ではなくて、お客さんのためのものなんだということを再認識してもらおう。その先で初めて、秋田市民市場は他の市場に負けない楽しさを持った市場へとチェンジしていけるのだと思います。その早道は、空き店舗スペースを僕たちがリノベーション（より良く改修）してしまいうことに違いない！ 僕たちはそう確信しました。

ノンのんびりスイッチ

雑貨や青果や水産など、それぞれの通りに、ちょうど良い間隔で現れる空き店舗スペースですが、毎度ノンのんびりな特集取材とはいえ、12の空き店舗すべてをリノベーションするのはいくらなんでも無茶すぎます。いや例え1カ所でも、たった1日2日というのは、なかなか現実ばなれした話。せめてここはポイントを2カ所に絞ることに。ということで、水産通りと青果通りからそれぞれ1カ所ずつスペースを決めます。しかしここで、そもそもこんな突然の提案を事務局の方が受け入れてくださるかどうかを確認しなければなりません。のんびり取材は毎



度そうなんです。が、突如わき起こる事態を前に、急に取材許可や撮影許可をもらわねばならず、その調整を一手に引き受けなきゃならない秋田チームは本当に大変。しかも今回はそれどころか、いきなり空き店舗をリノベーションしたい！ というのだからもう常軌を逸しています。けれどこの先の未来のビジョンを共有してしまった僕たちとしては、どうしても突破したい！ わけです。なので、勇ましく許可をもらいにいった秋田編集チームのヤブちゃん（矢吹史子）が、ニコリ笑顔で戻ってきてくれたときは、心のなかで

思いっきりガッツポーズをしました。となればさあ、やるしかない！

イメージ

実は水産通り側のスペース決定の決め手は、そこにもともとあった、鮭の木箱を再利用したテーブルがとてもよかったからでした。聞いてみると、以前事務局にいらっしゃった方が自ら製作したとのことで、僕たちもまずは机と椅子づくりからシミュレーション。そこで思い出したのが、いま青果通りを賑わせている梅でした。あの梅が入っ



た木箱をもらって机を製作することを起点に、イメージを膨らませていきます。とにかく今日は通常営業日。お客さんがいるところで片付けや掃除をはじめられるわけにもいかず、ちょうど市場がお休みの明日、思いっきり作業を進められるように準備をします。梅の木箱や工具、その他掃除用具を調達したり、お手伝いしてくれそうな人に電話をかけた後、それぞれに頭と体をフル稼働。編集部に戻ってからは、カメラマンの陽馬とデザイナーのシブ（澁谷和之）を中心に、梅の箱を使った机づくりがスタート。誰ひとり経験はないけれど、みんなで知恵を絞って、想像以上に立派な机が完成しました。と、ここで今日は作業終了。明日に備えます。

7月13日

日曜日の朝、お休みの市民市場はとて静かで、まるで違う場所に来たかのように。本誌『のんびり』の題字を書いてくれたイラストレーターの人や、秋田美大の学生さんなど、助っ人のみんなもかけつけてくれて大掃除開始。しかし10年の汚れはかなりの強者で、なかなか思うようにきれいにならず、何度も心折れそうになりながら必死で作業を続けます。そんななか、僕はあるものを見せてもらうために事務局へと向かいました。それは、秋田



市民市場のアルバムでした。市民市場の歴史を知り、当時の空気を感ずるには写真を見るのが一番良いと、事務局の方に用意していただいたアルバムは約30冊！ それだけの写真アルバムが残されていることに、市場への愛を感じます。特にモノクロ写真が多く綴じられた昭和30年代の写真はとて魅力的で、思わず見入ってしまった。しかし写真を見るだけではそれ

が何の写真かわからないものも多く、これは当時を知る人に聞いてみるしかないという結論に。そこで紹介してもらったのは、なんと朝ごはん対決で鉄瓶や急須を貸して下さった、「尾川園」の尾川光雄さん（78歳）でした。今日は市場から歩いてすぐの本店にいらっしゃるということで、早速向かうことにします。



が何の写真かわからないものも多く、これは当時を知る人に聞いてみるしかないという結論に。そこで紹介してもらったのは、なんと朝ごはん対決で鉄瓶や急須を貸して下さった、「尾川園」の尾川光雄さん（78歳）でした。今日は市場から歩いてすぐの本店にいらっしゃるということで、早速向かうことにします。

尾川園

尾川光雄さん

尾川タカ子さん

73歳

78歳



藤本 お休みの日に本当にすみません。市場の古い写真を見ていただいて、いったい何の写真なのか教えてもらえたらと思ってやってきました。

光雄さん（以下敬称略） うん。

藤本 尾川さんは、市民市場でお店を出されて何年になるんですか？

光雄 えーとね、昭和36年か37年だから。

藤本 ということは……50年以上?!

光雄 そうそうそう。

藤本 うわあ、すごい。

光雄 こういうの、うちの家内の方が詳しいのよ。

藤本 そうなんですか？

光雄 俺は、外販やらであまり店にはいなかったからな。



タカ子さん（以下敬称略） ちょっと見せて。

藤本 こういふ写真を見ても、昔は活気がありますね。

タカ子 いまのところだばスーパーなんだか市場なんだかわからないもの。そういうところが惜けないというか。昔の市場を取り戻したいよね。

一同 うん。

タカ子 できそうなない感じもするけども、やればできると思う。

藤本 うん。僕もやればできると思います。

タカ子 だから、魚屋さんでもあんな

——そこへ電話が鳴り、光雄さんがおもむろにテレビをつけます。

藤本 あ、市民市場が映ってる！

ま、どなたからの電話だったんですか？

光雄 うちの従業員。いまやってたからって電話くれた。

「ぶらり旅 いい酒いい肴」というタイトルの旅番組でした。そしてそこに映し出される画面に僕たちは釘付けになります。



藤本 え!!! 小分けの刺身売ってるよ!! どこのお店だろう。そんなお店なかったよね?!

ついさっきタカ子さんと、刺身で売ってくれたら若い人も買いやすいのに……と話していたその直後のタイミン

グで、それをやっているお店が映ったのです。その場で店名まで確認できなかったものの、それは確かに秋田市民市場の魚屋さんでした。そうか、やっぱりやってるんだ……。でもうまくいかなくていまはやめてしまったのかも。みんなやっぱり変わろうとアクション起こしてる! 突然のミラクルに僕は興奮していました。

藤本 これ、舞茸とかきのこが出るし去年の再放送ですね、きつと。

タカ子 うん、秋だね。

藤本 すごいタイミング!

タカ子 本当にね!

ラストスパート

その後、そのお店は水産通りの「すっぽんががや」さんだということがわかりました。実際に販売していたけれど、やっぱりロスも多く、いまはやめてしまったとのことでした。僕たちは神さまに思いっきり背中を押されたような気持ちになりました。

再び秋田市民市場に戻るも、午後6時半には市場を出なくてはいけないということ、みんなヘトヘトになりながら必死の追い込み作業。しかし、お休



に大きいものいっぱい置いてらったって、お客さんはわからないじゃない。

藤本 頼めば切ってくれるんですけどね。

タカ子 そうそう。でもやっぱり若い人はスーパーに慣れているから。市場だと、聞くのも聞けないし、聞かなければ言わないしで。

藤本 そうですね。

タカ子 あ、これ、運動会をやったのよ。うちの娘が小さいときだったね。あ、お父さんいた! これ。

藤本 いた! これ? 「夫婦の綱引き」だ!

タカ子 んだんだ、お父さんだ。真ん中。

藤本 うわあ、いたあ。



光雄 昭和50年。

藤本 約40年前かあ。家族みんなで参加したんですね。

タカ子 んだんだ。

藤本 いい時代だなあ。

タカ子 いい時代だったのよ、すごく。



みのはずなのに市場に出てきている何人かの方が「何してるの?」「頑張ってるね」などと声をかけてくれるものだから、再びチカラ漲るのんびりチーム。なかでも一際若い男性が声をかけてくれたことが随分嬉しかったのを覚えています。そしてその男性こそが、最後、僕たちの救世主になるなんてそのときは思いもよらないのです。

以前本誌で取りあげたことをきっかけに制作していた、色とりどりの秋田の寒天を撮影した写真パネル。それらを青果通りのスペースに飾ったところで時間切れ。しかしお手伝いしてくれたみんなのおかげで、なんとかギリギリカタチにすることができました。





7月14日
昨夜、市場での作業を終えて編集部に戻った僕たちは、リノベーションを試みた空きスペースの名前を「のんびりスペース」と名付け、看板を制作。さらに、水産通りのスペースに古いアルバム写真を展示しようと、たらの空き箱を再利用した写真フレームを制作したり、足りない椅子を制作したりと、積み残した作業を延々と朝まで続けました。というのも、今日は東京組など、ほとんどのメンバーが秋田を発つ、全員取材最後の日。し・か・も、表紙撮影の日!!! なのでした。



徹夜作業のため、少し遅めの朝10時に集合したのんびりチームは、早速のんびりスペースを完成させるべく作業の続きにとりかかります。そしてなんとかお昼には看板に文字を貼り付けて完成! しかし、喜ぶ暇もなく14時からにはじまる表紙撮影の準備へ。昨日、掃除を手伝ってくれた美大生も再びかけつけてくれて撮影リハーサル、そして本番と、怒濤の展開。なんとか16時には撮影無事終了。もはや体力の限界ギリギリ……。

藤原商店さん

ようやく一段落し、完成したばかりの青果側「のんびりスペース」で、秋



田メンバーのヤブちゃんとシブが休んでいたこと。すぐ近くの八百屋さん、「マルギン藤原商店」さんのお母さんがやってきました。そのときの会話をヤブちゃんが録音していた音声を聞いて、僕は心底感動しました。これは紛れもなく神さまからのプレゼント。「のんびりスペース」を作ったからこそ生まれた出会い。突然ですが、ぜひ読んでみてください。



第4章
のんびりの
スペースの
意味



から新しく建てるってことになって、それで空いているコマ入らないか？ ってなったのよ。
矢吹 どうやって固定客ってできていったんですか？
カツミ はじめは、しめりっとしてたの。笑い顔もなかったと思う。でも、そうあってはいげねえなって、呼び込んで、笑顔を見せなければ、笑顔だ、笑顔だ、って。何するにも笑顔が大事だなってやってたら、自然と笑顔がついできて、そしたら、お客さんが付いてきてくれた。

カツミ 休みの日に来て？
矢吹 うん。休みの日に。
カツミ 何？ あなたたち、どこかの学校の生徒さん？ ボランティアでやったの？ 寄付もらわないの？
矢吹 私たちね、秋田を全国に紹介する雑誌を作ってるんですよ。そのなかで、秋田市民市場の特集を考えていて。お母さんは、市場にいて何年になりますか？
カツミ 23歳からだから……。いまは86歳。
矢吹 86歳!? お元気！ お肌ツツルですね！
カツミ なんと！ はははは。
澁谷 ずっとここで切り盛りされて？
カツミ お嫁にきて、秋田市内でしょ

カツミ はい。
矢吹 その朝倉市場に入ってなんとでした？
カツミ 難しいと思った。せっかぐ借りて店やっただけでも、最初からやる店に固定客が付いじゃっての。私達は散々苦勞して、難儀して。
矢吹 そうか？
カツミ そうやってがんばってるうちに、ここに市場ができたの。不衛生だ

と店をやって。市内で借りてるところも良かったけれども、やっぱりこういう市場の時代だったから。朝倉市場の時代だったからね。
矢吹 朝倉市場って、今の市民市場の前身の……。
カツミ うん。朝倉さんて人が主だったんだな。終戦直後ね。そこに入るお飯もなかったけど、朝倉さんで魚の残飯を投げる(捨てる)場所として隅っこが空いでいたの。その一角で、雨ざらしになってる所だから雨が降ればできないけれども、貸してくださってごどで、借りだの。それから一文無しでがんばったの。
矢吹 へえ。それからずっと八百屋さんで。



矢吹 良かった思い出もありますか？
カツミ 誰からもお金借りないで、食べるのを(1日)2食にしたり、自分では何も食べないで、子どもさ食べさせたり……。それでも子どもが迎えてくれば、昔は農道だったけれども、そこを子どもと一緒に歌って帰るのが、いちばくん楽しみだった。子どもがみんなひねくれないで、良く育って。おかげさんで、大学さ入力でやって、今日に至るの。他人さも、お金を惜しみなく貸してやったの。返ってこなくてもいいんだ。その分が返ってこなくても、「おかげさんで、良かった」って言うてる人もいなくて。でも、当時その人たちの苦しみを手助けた分が、子どもさ返ってくれば良いと思ってるの。だからやって良かった。いまは悔いがないな。死んでも、何しても、みんなさ大威張りで間魔様さ行ける(笑)。最初は苦勞して、苦勞して。人に良いことをして与えてきたが、そしたら苦勞が身になったし。亡くなった親ががんばれよって、励ましてくれたんでないが。良いことを与えれば、その分返ってくるんだって……。あんまりしゃべれば、涙流れてくる(笑)。あきらめないことだ。お金ないときは、ごはんをおかゆにして、伸ばして伸ば

して、子どもに食べさせて。それでもきないときはうどんにして。「良くならないはずはない」「人間ががんばってできないことはない」って、歯食いしばって……涙流れてくる。

はじまりの予感

そもそも僕たちが「のんびりスペース」を作ろうと決めた、その意図など遙かに超えて、この場所が生まれたことの意味を、カツミさんは教えてくれたように思います。一方、水産通りの「のんびりスペース」では、魚屋のみなさんが写真パネルを持って思い出話に花を咲かせていました。その光景を眺めながら僕は、取材の終わり独特の達成感を感じたのと同時に、あらたなはじまりの予感を猛烈に感じていました。スペースは確かに完成したけれど、



僕はどこかで、大きな出会いを見落としてしまっているような気がしてなりませんでした。浅田くんや鍵岡くんなど、東京へ戻るメンバーを秋田駅まで見送った後、一日遅れで戻る予定の僕は、さすがに疲れた身体を休めようと早々にホテルへと戻ることにしました。

7月15日

飛行機で兵庫県へと戻る前に、どうしてもお礼を伝えておきたい人がいました。それは、表紙撮影含め本特集取材中の僕たちの突然すぎる要望を、毎回全力で調整し協力してくださった事務局の竹内順さんでした。もはや竹内さんのおかげで完成したと言ってもよい「のんびりスペース」をあらためて見てもらうべく、僕たちは竹内さんを水産通りのスペースにお呼びしました。



秋田市民市場事務局
竹内順さん
37歳

藤本 本場に今回は竹内さんに助けられて、なんとかギリギリここまで。
竹内さん（以下敬称略） いえいえ。
藤本 市場って、個人商店の集合体ですよ。だからやっぱり個人の思いと全体とは違うじゃないですか？
竹内 そうですね。
藤本 そんななかで今回は、竹内さんかなり個人の思いで無理をしてくれたんじゃないかと。
竹内 まさかまさか。

矢吹 でも、本場にそうです。きっと真っ向からいったら……。
藤本 だめなことを、個人の思いで裏技を使ってくれたなあ。
矢吹 思います。「日曜日に場所を使わせて」とかOKいただけしたのは、やっぱり竹内さんが意志を持って市場を変えたっていうのがあったからかなって。
竹内 いやいや。上の人たちがいいよって言うてくれた、それだけのことです。



矢吹 本当、頭を下げにいったくんだりしてたと思うので。

藤本 だよなあ。

竹内 そんな。

藤本 だからこそ僕たちとしても、その時々とても切実だったんです。

竹内 ええ。

藤本 特に今回、空き店舗がキーだと感じて、ここを作ったんですけど、実際そのほとんどが、隣の店の物置状態。だからって、僕たちのようなよそ者がそこに介入して「物置かないでください」って言うんじゃなくて、スペースをこうやってきれいにすると、これ

までのように荷物置くことに躊躇が出てくるわけじゃないですか。

竹内 ああ。

藤本 それがデザインの方だと思っんです。そういうふう僕たちの労力とアイデアで変えられることを、この数日の間で少しでもご提案できたらいいなって、いろいろ無茶なお願いをしましたが。

竹内 いえいえ。

藤本 なので、これをスタートに、引き続き一緒に考えてもらえたら嬉しいです。よろしくお願いします。

竹内 とんでもない。こちらこそよろしくお願いします。こちらとしても空きスペースをうまく使えないかなあと考えていたので、今回はやってみたらけど、我々自身がちゃんと手を加えてきれいにしていかなきゃっていう気づきももらえて。

藤本 ああ、嬉しい。

竹内 デザインの力っていうのは、すごいなあと思いました。

藤本 ちょっと青果側も見にいきましたか？

竹内 はい、ぜひ。

— 青果側「のんびりスペース」へ移動 —



藤本 わあ、満員だ。
竹内 すごくいですねえ。

藤本 みんな理解してくれてる。戻りましょう。

— 再び鮮魚側「のんびりスペース」へ —

矢吹 やって良かったなあって思ってますね。

藤本 そうだねえ。ああいう姿を見てもらうしかないなあ。

竹内 うんうん。本当ですね。

藤本 今回、本当に市場ってポテンシャル高いなあとあらためて思ったんです。

竹内 うん。

藤本 秋田のいいものがいっぱい詰まったテーマパークみたいなことが、見せ方を編集するだけでできるなあ。すごく思ったんですね。

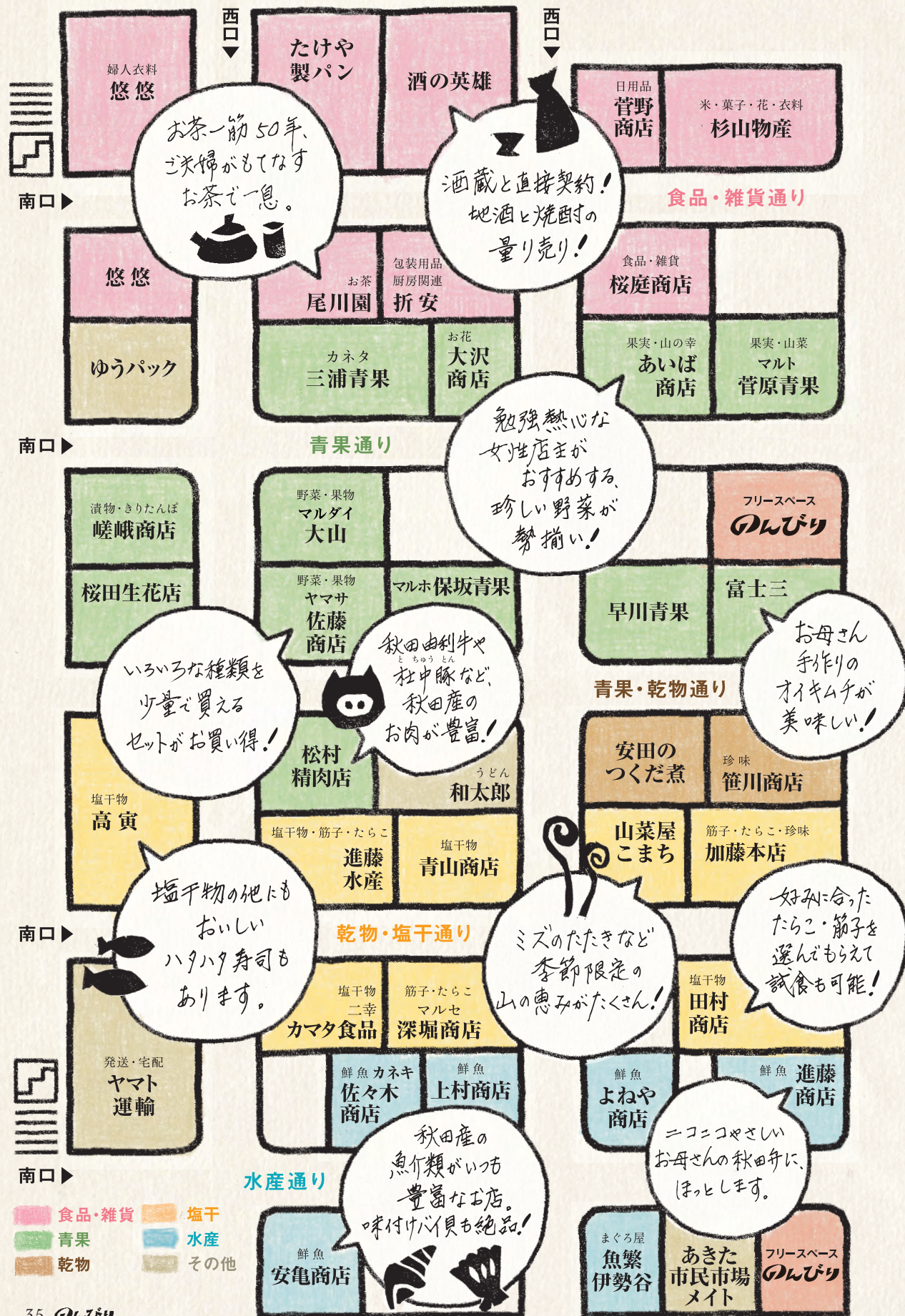
竹内 なるほど。

藤本 最後に一応確認なんですけど、このスペースはこのまま、この状態で引き渡して大丈夫なんですか？

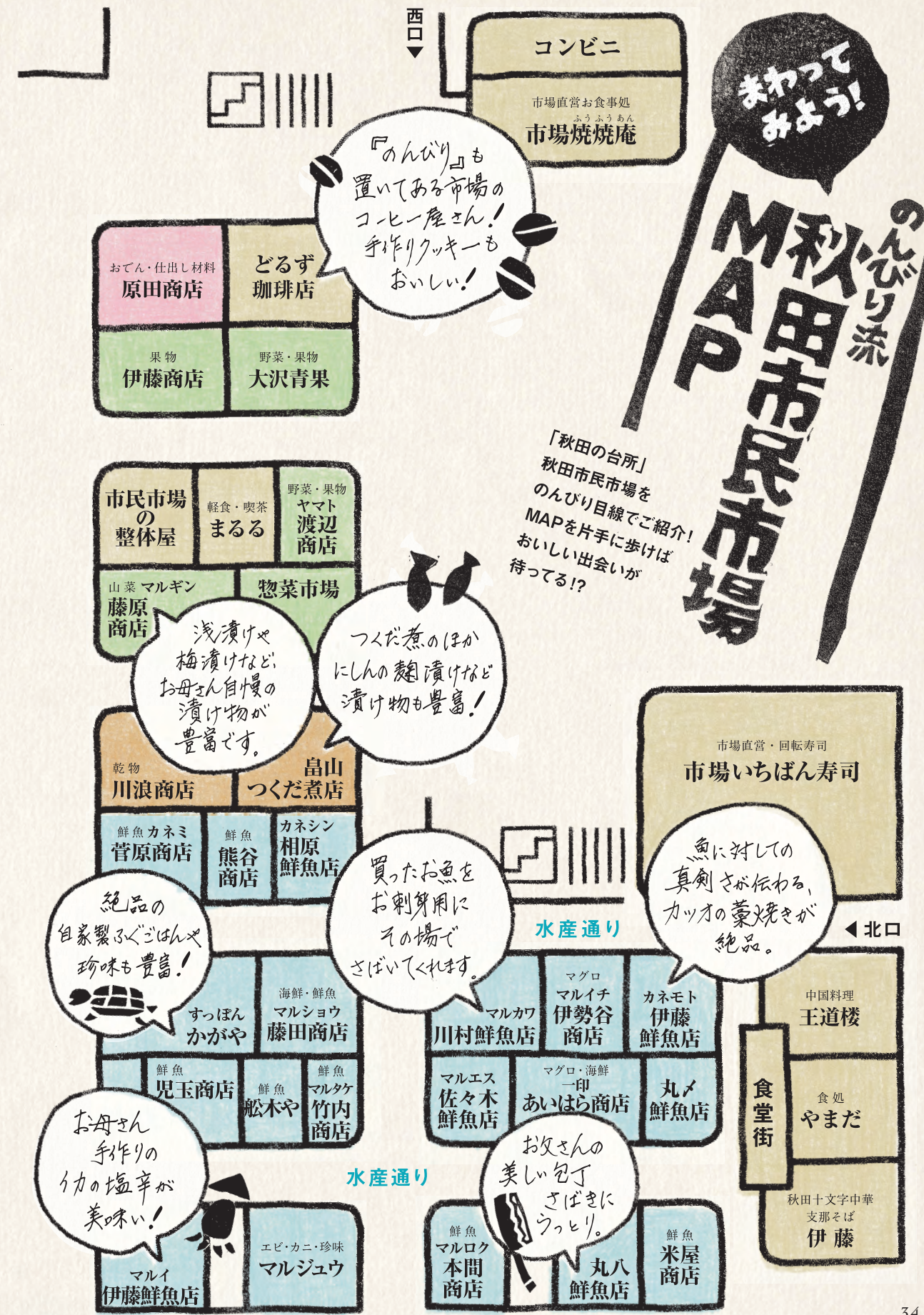
竹内 もちろん。

藤本 よかった。では引き続きよろしくお願いします。本当にありがとうございました。

竹内 ありがとうございます。



食品・雑貨 塩干
 青果 水産
 乾物 その他

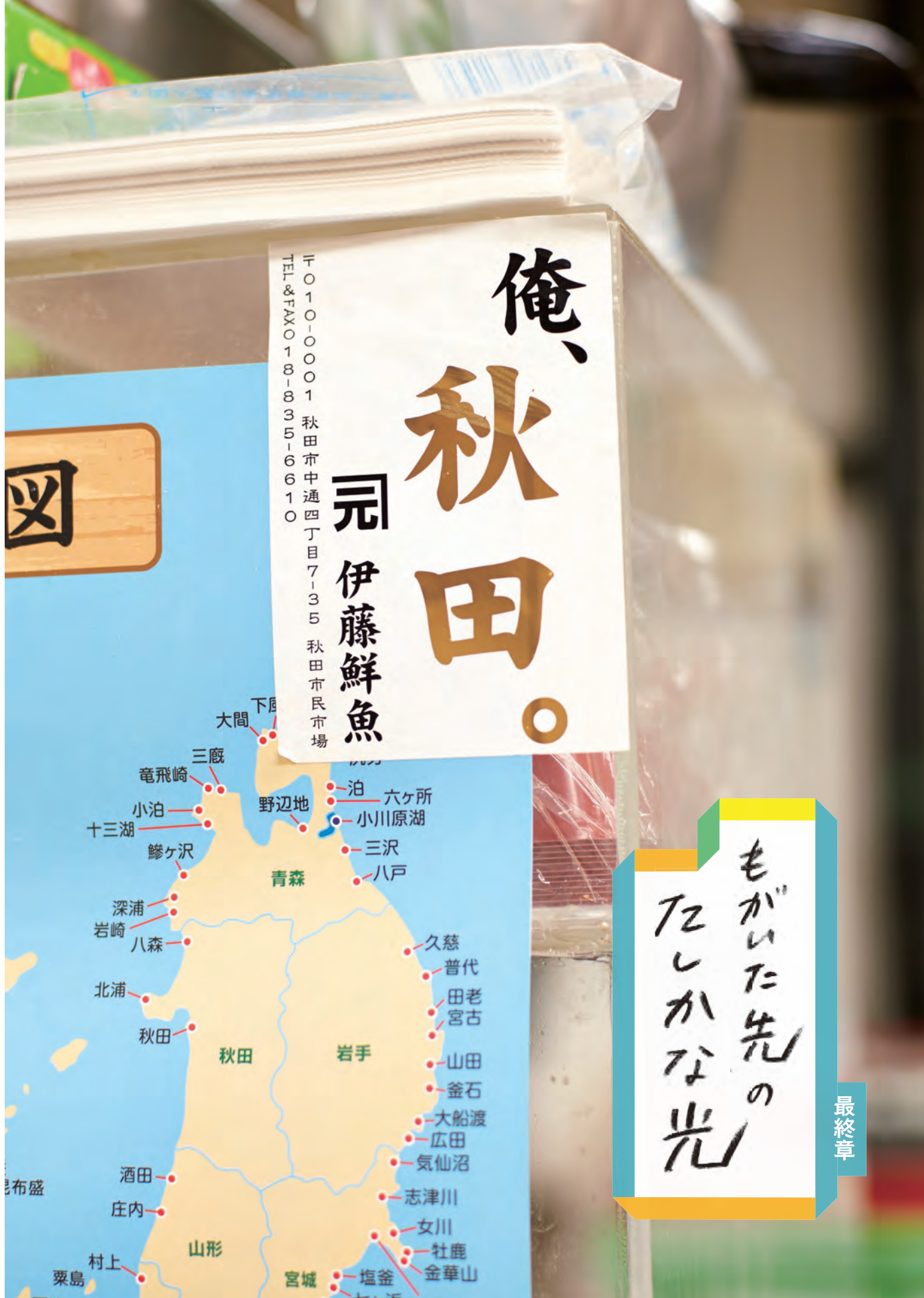


まわって みよう!

MAP

秋田ののんびり市場

「秋田の台所」 秋田市民市場を のんびり目線でご紹介! MAPを片手に歩けば おいしい出会いが 待ってる!?



もがいた先の
たしかな光

最終章

市場の未来

当初予定していた全取材日程を終えて、一旦兵庫県に戻った僕ですが、約1週間後に別の仕事で再度秋田入り。そのチャンスを活かさない手はないと、僕は秋田メンバーにお願いをして、秋田市民市場の3人の方との飲み会をセッティングしてもらいました。お声掛けしたのは、最終日にお話を伺った事務局の竹内順さんと、朝ごはん対決の審査してくれた玉野和貴さん。そしてあとひとり、表紙撮影にも参加してください、お話を聞きたいと思っていた「マルカワ川村鮮魚店」さんの川村齊さんでした。

お話を聞いていると、世代の近い3人が秋田市民市場の未来に対して同じ思いを抱き、幾度となくアクションを起こしては、歯がゆい思いを重ねてきたことがとてもよくわかりました。前で顧客満足について学んできた玉野さんは「もう一回秋田の人を市場に戻したいんですよ」と強く僕たちに訴えかけてくれたし、市場の未来を支える当事者とも言える川村さんは、若手のひとりとして切実に市場の現状を憂いながら、何より結果を出さなければ



自分に言い聞かせる姿が印象的でした。また、そこで川村さんが言ってくれた「二声かけてもらえれば、青年部もあるし、動きますから」という言葉は僕たちにとってあまりに有難い一言でした。さらには竹内さんまで「のんびりのみなさんがいい顔してて、裏表がないなと思っただけです。ほんとに市場のことを知りたいし。向かいの魚屋さん



ゆうすけ
優佑くん

夜も深まり、お酒もお喋りもますますいきおいを増していくなか、僕は完全に酔っぱらってしまいう前にどうして聞いておかなかちゃと思っていたことを、目の前の竹内さんに聞いてみることにします。それはあるひとりの青年についてのことでした。

は何か考えてるんだろう？ って。それが、僕が市場に入ったときの気持ちと同じだなと思っただけです」と嬉しいことを言ってくれて、僕はあらためてこの人たちの、市場に対するまっすぐな愛に感動していました。

藤本 今日、昼間に青果側の「のんびりスペース」でごはん食べたんですけど、そこで写真撮ったら20代のふたりが来てくれたんですよ。
竹内さん(以下敬称略) 優佑くんすか？
藤本 そうです、そうです、優佑くんと百恵ちゃん。優佑くんにいつから市

場にいるの？ って聞いたら、26なのに、修行で出てたときも入れたらもう10年いるって。高校が市民市場でしたって言うって。

竹内 あの子は僕も何年も前から会ってて。あの子ほんとにすごいんですよ。知識が。今日も実は「菓焼きして鰹のたたきの美味しいの作ったから、竹内さん食ってみてくれ」って言われて。「うめえなあ。優佑、最高だよ」って。

藤本 へえ。今日も、「あいは商店」の百恵ちゃんと2人でずっと立ち話してて。百恵ちゃんも伝統野菜をすごく勉強してるし、この26歳ふたりにすごい未来を感じたんです。優佑くんも、ただのヤンキーじゃないなと(笑)。

竹内 あいつはヤンチャしてるだけじゃないんですよ(笑)。すごくいい子で。ああいうやつは、ほんとに、めんげくて(涙)。

藤本 僕たちが日曜日に掃除してるときに、彼は休みのはずなのにでてきていて、僕たちに話しかけてくれたんですよ。それがすごく印象に残ってて。

竹内 「カネモト」伊藤鮮魚店」さん。あの子が来てから変わったっすもんね。素材にこだわって。刺身もほんとときれいなんです。優佑くんは一昨年からかな、東京時代も大晦日に1日だけ市



場に帰ってきてたんですけど、やたら大きな声が聞こえると思ったら、優佑くんが帰ってきてるって。でも市場らしいんです。我々が思ってる市場静かに「いらっしやい」じゃなくて、これだ！ って。

藤本 賑わいでもんね。

竹内 ああいう感じ、大したもんだと思う。見た目はヤンチャそうだけど、いい子だ。大好き。

藤本 ああいいなあ。優佑くんに会わなきゃいけない。

8月18日

そこからさらにひと月近くたった8月18日。僕はまたしても別件で秋田入りしたタイミングで、どうしても話したくて仕方なかった優佑くんに時間をもらいました。場所は青果側の「のんびりスペース」。秋田市民市場という漠然とした相手を前に、もがいて、もがいて、もがき続けたその先にみた一筋の光。彼のインタビューで今回の特集を締めたいと思います。



カネモト伊藤鮮魚店
伊藤優佑さん
26歳

藤本 優佑くんはもともと、お父さんが市場でお店を？

優佑さん(以下敬称略) そうですね。**藤本** 優佑くんはいつから、魚屋を意識しはじめたの？

優佑 もう最初から。俺は継げって言われて継いだんじゃなくて、もともと自分でやるつもりだったんです。だから本当は高校なんて行かないで、ずっとやりたかったんですけど。あと、市場の雰囲気、空気、匂いとか。そういうのがもともと好きだったんです。天職なんですよ。

一同 おお。

藤本 優佑くん高校を途中で辞めたんだっけ？

優佑 そうですね。お勉強得意じゃないんで(笑)。

藤本 じゃあ辞めて魚屋の修業に？

優佑 そうですね。で、「俺は18歳になつたら秋田を出る」って言って、札幌の「北辰」っていう魚屋で3、4年くらいかな。「北辰」は一応、小売りでは全国1位。そこでいろいろ培った上で、やっぱり東京の、世界の築地に行きたい。1回秋田に帰ってきて3週間くらいで、すぐ東京へ行ったの。それで東京に3年半くらい。最初に紹介してくれたところへ挨拶がて

ら行って。相談したら「やってみるか？」って。

藤本 へえ。

優佑 それで経験積んで。

藤本 築地に行ってみてどうだった？

優佑 築地はもう何千軒っていう店があったから、すなわち何千人の経営者がいるでしょ。そうすると、特に経営者の人たちと喋れる機会が多くなる。

藤本 はいはい。

優佑 それで、こういう思いでいるんですけど言うのと、やっぱりみんないろいろと教えてくれるんですよ。



藤本 なるほど。

優佑 それが勉強になりました。魚の良い悪い云々もそうだけど、やっぱり人間の魅力がないとダメよって。

藤本 そうやって外で学んで、いま秋田に帰ってきたのはどうして？

優佑 そうですね。この市場で朝仕事をしなかつたら、たぶんみんななところいうふうな話せる人間ではなかったと思うので。

藤本 ここが高校だったって前に言ってたよね。

優佑 そうですね。学校だったんですよ。本場に育った場所だから、秋田っていうところに対して、特に俺には魚

しかないから、魚の分野で何か恩返しできたらなっていうのがやっぱり強いですね。

藤本 東京で大きくなることよりも秋田で？

優佑 ちょうど築地にいるときに、お世話になったお客さんに「資金出さから独立すれば？」って話をもらって。

藤本 それは築地での話？

優佑 そうそう。築地でやる上です。でもやっぱり東京でやるんじゃないかって俺は秋田でやりたいんですって。

藤本 それはいつ頃？

優佑 ちょうど去年の頃かな。

藤本 え?! そんな最近なの?!

一同 へえり!

優佑 いや〜(笑)。東京にいる間は、年に1回くらいしか帰ってこなかったの

で。本当、今年からようやく秋田なので。それで、いま、出荷とかもやってるんですよ。秋田のものを、今度は県外に出して。やっぱり県内だけだと厳しいので。

藤本 なるほど。

優佑 そもそも「秋田なんて……」とか、そういうのがね、まず好きじゃない(笑)。

藤本 うんうん。

優佑 「秋田だからこそ」っていうね。いや、本当に食のレベル高いんですよ。どこに出しても恥ずかしくないものもある。

藤本 それ、あれだね。店にも貼ってた「俺、秋田。」シール(P36参照)。

優佑 そうそうそう。べたべた貼って出すの(笑)。

藤本 あれ、最高だよ。

優佑 あれ、いいでしょ(笑)。

藤本 あれ、いいよ。

優佑 いや本当、食のレベルは上に行けば行くほど恥ずかしくないっていか。

藤本 そうなんだねえ。

優佑 やっぱ自分の手元にきた子には、それなりの物語があるから。それを説明してあげられるような子たちを集めて売ればいいんですよ。なんでもいいからお金に換えようって持つてるんだと、説明もできなくなるんですよ。その子の良さっていうのを、俺らがちゃんと引き出してあげないと。その為には当然知識も必要だし、腕も必要だし、販売力も必要だし。それを買う力も必要ですよ。1個しかないものはみんな欲しいから。いろんなが必要ですよ。

藤本 トータル力だね。どれが欠けていてもダメだもんね。

優佑 そうそう。そうやって結果を出し続けないと無理。

藤本 そうだね。みんなそうしてるんだよね。僕らもそういう意味でいうと、なんだかんだ言うよりも、形や結果で出していくしかないなあという思いが基本にある。それで今回の市民市場もすごく悩んだわけ。

優佑 はい。

藤本 市場は個人の集合体だからいろ



んな考え方の人がいるだろうし。なにより僕らよそ者だし。だから行動と結果しかないなと思って黙々と掃除をしたり。

優佑 ああ。

藤本 自分たちがやれることをやるしかなかった。その黙々と掃除をしているときに声をかけてくれたのが優佑くんだったから。

優佑 ははは。「何やってんの？」って。藤本 そうそう(笑)。いま思えば、あのとときの出会いというか、そこからすごいちゃんと意識の部分が触れていったんだなあと思ってる。

優佑 ははは。

藤本 最初取材はじめてとき、どう進めていいかわかんなくて、象潟の若い漁師に会いに行ったの。そしたら彼らに「秋田の漁業に未来はないよ」って言われちゃって。

優佑 へえり。

藤本 だけど「最高にいい仕事だ」って。その矛盾した言葉の奥にあるのは、やっぱり、いまの海を作ってきた先輩たちがまったくチェンジしようとしなないとへの苛立ちがあるなと思って、彼らの一見投げやりな言葉の真意に僕はなにかすごい共感できた。

優佑 いやほんと、例えば秋田で出回



「じゃあそれをやったらお前は全部買うのか？」と。そうなるから「あくダメだな」と思う。それ以前のもう少しプライドの世界の話をしようよって。

藤本 そうだよな。

優佑 秋田の人たちは、魚に対して敬意を払っている感じがなくて、どっちかっていうと魚を物として扱ってるところがあるから。

藤本 なんでそうなのってんだらう？

優佑 もともとそういうものなんですよ。そういう文化だし、獲った者勝ちっていうか。底引きっていう漁法が主体の浜だと、みんなそういう感じなんですよ。

藤本 なるほど。

優佑 だから、いまほとんど評価されている浜とか漁港は、良い状態で魚が獲れる漁法でやっているから。少なくともそこら違いますね。

一同 ふーん。

藤本 優佑くんは、その魚がどういう漁法で獲られたかっていうのを仕入れのときに見て、わかるものなの？

優佑 当然見た目でもわかる。同じ鯛

でも、一本釣り、はえ縄、定置網、刺し網、ごち網って、5種類もある。その中で肉の厚いのは良い魚として評価されるけども、それ以前に漁法で魚の状態が分かれちゃうんですよ。刺し網ってというのは網を設置してそのまま放つたらしかだから。そこに魚が刺さるわけですよ。そのまま海の中で泳げない。それで5時間とか10時間とかいると、あんまり良くない状態で上がってきちゃいますよな。

一同 うーん。

優佑 一本釣りは、すぐいろんな手当てができる。その手当てにしても、秋田はまだまだなんですよ。

藤本 なるほどな。

優佑 だから、俺は自分の漁師がいるんですけど。

藤本 へー。

優佑 自分の漁師には、魚を泳がせて持ってきてくれて。ほかの仕事は全部うちらがやるから、とりあえず生きた状態で届けてくれと。

藤本 なるほど。

優佑 みんな、そこまでやってない。利益とかはシビアに考えるかもしれないけど。対魚目線で考えてあげないと底上げされないっていうか、みんなのためにならない。

藤本 市場のこともそうだけど、漁業とか、日本の水産とか、もう少し大きな話で。

優佑 そう、大きな話でみますね。どっちかっていうと。俺ができるのは小さいことなんだけれど、でも少しでもみんなうちの店に目を向けてもらえるようになったとして。それも何年後の話ですよ。

藤本 うん。

優佑 一生懸命獲ってきてくれる漁師さんがいないと、俺らは仕事ができない。「こうやってやってくれるとお客さんが喜んでくれるから、やってくださいませんか？」って頼んで、それに対してやってくれた良いものに、こっちは値段をつけるから。だから俺、秋田のものに東京よりも高い値段つけますよ。

藤本 へえー。

優佑 それでも付き合ってくれる人はいますからね。飲食店関係とか。やっぱり意識を持って人たちが何人かいるから、お客さんだけ仲間ですよな。

藤本 そうだね。

優佑 まだやってないようなことを先取りしてやらないと。いまやっていることをただ継承するだけだと、いままですべて人たちに勝てないから。

藤本 うん。

優佑 やっぱ、自分らで作ら上げていくもののほうが、武器になるから。そこに魅力が出てくる。そういうのを、俺ら世代ってわけじゃないけれど、みんなもつと念頭においてやったほうがいいんじゃないのかなと。

藤本 そうだね。本当に。ありがとう。

non-biri event!

「秋田市民市場で朝ごはんを食べよう！」
10月19日(日) 朝 9:00~

詳細は「のんびり公式ウェブサイト」をご覧ください <http://non-biri.net>



みんなの民

うた謡

取材・文 = 矢吹史子
 写真 = 高橋 希
 Text_Fumiko Yabuki
 Photo_Nozomi Takahashi

「民謡王国」といわれる秋田県では、お祭り、結婚式、宴会、大会など、県内のそこそこで一年中、民謡が唄われています。そこでは、手拍子をしながら一緒に唄ったり、自ら出演してその唄声を披露したりしながら、聴き手も唄い手も純粋に目を輝かせるのです。そんなふうにして、民謡に触れながら暮らす秋田の人たちを訪ねました。



小野花子ファン
 小熊操さん (秋田市)

『のんびり』5号の表紙にも登場した秋田を代表する民謡歌手の小野花子さん。その民謡ショーが開催された秋田市の夏祭り「秋田節」が始まるなり突如ステージ前に現れ、踊り始める女性たち。大盛況の会場が踊りでさらにヒートアップ！1曲踊り終えたところで、お話を伺いました。

私たち、ファンクラブみたいなものだからね。花ちゃん(小野花子さん)が出るっていえば、岩手とか、この間は

浅草とか、どこまでも行くの。みんないつも一緒なの。「秋田節」が始まると、ああやって、どこに行っても踊るのよ。やっぱり花ちゃんの魅力は、この声量。それから、耳に馴染んでくる声がいいのよね。人柄がにじみ出てるじゃないですか。花ちゃんの唄で「秋田小原節」の替え歌があつて、日本海中部地震のことを唄ってるんですよ。それがすばらしい。最初聴いたときはみんな泣いてね。(津波で犠牲になった) 田合川南小学校の子どものことも織り交ぜて唄ってるんですよ。唄で教訓を伝えたいなって。唄だと残るじゃないですか。ぜひ聴かせたいです！



みんなが毎月1日に「蕎麦の会」っていうのをやってるの。仲間に蕎麦打ちする人がいるから。そこに必ず花ちゃんも来て、唄って、踊って、楽しんでくるの。花ちゃんは、アカペラで必ず5曲くらい唄ってくれるのよ。

ほら、これ食べない？ 寒天。私作ったの。すごいおいしいから食べて。いつもこうやってお料理自慢でね。昨日もその蕎麦の種まきしに行ったの。朝5時から種を植えて、6時半頃終わって、朝ごはんを畑で食べたの。一人3品ずつ作って持って行ってね。今日もここに作ってきましょうね。手分けして作ってきたの。夏祭りなんかにも、みんなで仮装して行くのよ。ハワイアの格好して行ったりね。そうやって人生を楽しんでるの。ははははは。

保育士 深瀬康子さん(大仙市)

ご両親が三味線を演奏していたこともあり、小学生のころから民謡を始めたという深瀬康子さん。現在は長年の夢だった保育士を職業としながら、秋田県内外の全国大会でも優秀な成績を修め、唄い続けています。

民謡を始めるより先に、保育士に憧れていたんです。自分が幼稚園児のころ、素敵な先生に巡り会って「こういうお仕事をしたいなあ」って夢を見続けてきて、実現できました。縁あって、その恩師と一緒に働くこともできたんですが、イメージと全然違って(笑)。自分が子どものころは優しくしてくれていたけど、1年目はもうピシバシで。現実には甘くなかった……。

仕事をしながら唄うのは大変で、就職してから3年くらいは仕事も板に付かないし、失敗と反省ばかりで。でも、やりたかった仕事なのに……っていう葛藤のなかで、民謡があつたから切り替えができて「また明日も仕事がんばろう」って思えたんです。正職員になったときに恩師が「民謡も続けながらがんばれ」って言ってくれて、今も大会で賞をとった新聞記事を見るたびに「教

え子の活躍を嬉しく思う」って連絡をいただきます。

東日本大震災の復興支援で宮城で唄わせてもらったときのことなんです。観客の方が私の唄で涙を流してくれたんです。唄ってる私も涙が出て……。「唄に魂が宿った」というか、「伝えてやろう」っていうんじゃないかって、思いを込めて唄った唄が自然に伝わったのが嬉しくて。そんなふうに、聴いてくれる、応援してくれる方々がいるから唄えている。そして、その原点には両親がいるのほもちろん、師匠であり、ライバルであり、嫁ぎ先の家族の応援もあって……ってというのが、最近やっとわかってきました。



秋田県立由利高等学校 民謡部 須田夢子さん(由利本荘市)

44年の伝統がある秋田県立由利高等学校校民謡部。総勢26名による唄と踊りは圧巻！ 施設やお祭り毎週のように、その演技を披露しています。今年も全国高等学校総合文化祭にも出場。その後引退となった、部長さんを訪ねました。

高校1年生の部活動紹介のときに、先輩が「秋田音頭」を踊っているのを見て、とても感動したのを今でも覚えています。最初は吹奏楽部に入っていたんですけど、やっぱりその感動が忘れられなくて、民謡部に入りました。でも3年間やってきて、辛いことの方が多かったですね。部長になってからは、頼れる先輩になりたい、明るくて楽しい部活にしたいと思いつつも、不安のほうが大きくて、泣いたりしたこともありました。でも、人として成長できたかなって思っています。

今は、保育士を目指して県外の短大に行きたいと思っています。人と関わる仕事がしたくて、中学校のボランティア活動のなかで保育園を訪問したとき、あやとりとか折り紙とか、私が教えたことをできるようになって喜ぶ子ども



の姿をみて、やりがいを感じたんです。先日、保育園に行つて「ドンパン節」を教えたんですけど、やっぱり園児たちには難しかったみたいで。でも先生はマスターして楽しそうに踊ってくれてました。この部にいると、いろんな人に関わりたいう気持ちになりますね。おじいちゃんおばあちゃんの話しかけてくれて、そういうのも好きなんです。今までは、自立したくて、秋田から離れたらってほんとに思っていたんですけど、でも最近はずっと違います。民謡をやっていると、秋田の良さが分かってきたのもあって、方言とか、田舎ならではのいいところがあるということにも気がつきましたしね。もうちょっと秋田にいたくなって思っています。

運送業を営みながら、40代で本格的に民謡を始め、わずか10年で全国優勝を成し遂げたという坂本さん。現在は地域のみなさんに民謡を指導したり、民謡大会を企画開催しながら、イベント会場などで唄うこともライフワークとしています。



「唄っこ唄ってれば人が寄ってくる、寄ってくれば酒っこ馳走になるにいい」ということで、味を占めて我流でやり始めだんだな。そして、民謡の先生から本格的にレッスンを受け始めたのが49歳で、その頃は明けでも暮れでも唄っこ。人の3倍も4倍も練習した。いつも思うんだけど、民謡の奥深さが、やるほどわがってくるっていうのが、逆に怖くなるっていうのが。どこまでいった完成品なのがわがらねんだすよ。でも観客は「真剣に聴かせてくれでるな」っていうのが伝われば、1曲終わるごとに拍手がすごいです。俺ら唄い手にしてみれば、お金云々でなくて、あれが醍醐味で辞められねくなるのやな。麻薬と同じだ(笑)。

元々は農家なんだけれども、30代で運送業を始め。秋になると米の運搬で、農家から倉庫まで毎日何十回と往



んです。それが地方独特の「味」と言われているもので、それはここに来て勉強しねば絶対できねんだす。

秋田の人にとって、民謡は生活の一部になってるんでないかな。聴くほうも、唄うほうも両方。それが何十年、何百年続いている要因でないかと思うすな。若い人は少なくなってきたている。でも、時の流れっていうのがあるから、俺は民謡だけにこだわることでもねえど思うんだす。比率が低下しながらも隠れた信者は必ずいるし、そういう信者を掘り出して、大事にしていきたいなって感じはするすよ。民謡、三味線っていうのは、昔からこの国にあったものだから、どっかで誰かが血筋を背負ってるんだよな。だから、消えそうで消えない火が残ってるんだ。昔から流れできた何かが伝わってきてるんでないかって思うな。

今年、古希やったが、あんまり高望みできねえけども、せめて自分の健康を維持して、できるだけ長くみなさんさ良い唄聴かせられれば、あど、若い人さ自分のノウハウをなんぼでも伝えていければな。これは相手あって初めてできることで。聴く人も、習う人もな。自分一人でやってでもできない。やっぱり根本は仲間づくりでねえがな。

復するんだ。そのどぎ車に一人で乗って、専用のカセットテープかけで、上り下り一生懸命発声練習して。車の中だけ誰さも迷惑がらないがらな。そして、口の開き方。ルームミラーを利用して、どういう口の開き方をすればどういう声が出るのがっていうことを研究する。すると、ミラー

見ながら唄って走ってるもんだがら、対向車の運転手と目が合えば、相手は「バガでねえが？」って思うわけよな(笑)。

民謡は「作業唄」ど「祝い唄」大きく2種類しかないんだけども、とくに作業唄は「へづねえ(切ない)がら、苦しいがら」って、気を紛らわすために、さがんてみるが(叫んでみるか)っていう

のが始まりの唄なんだすよ。「秋田草刈唄」もそうで、由利地方の鳥海山(むつみかいさん)さ朝早く起きて草刈りに行く。その時にやっぱり朝早いから眠い、戻りは草刈って背負って歩いてくるがら、重いし疲れるわな。それを紛らわすために唄った

んだす。高い山での草刈りだから、その情景を思い浮かべて、声を山さこだまさせるようにきちっと出して、そうやって唄わないどダメなんだす。

民謡は楽譜はほとんどゼロ。有名な民謡歌手の内弟子で県外がら来る人がいるけれども、なんであんな遠くがら来るがっていうど「その土地の香り」っていうのがあるんだすよ、唄には。例えば「秋田おぼこ節」も、うちらに言

わせば「秋田の秋田おぼこ節」ど「東京の秋田おぼこ節」があるんだ。おぼこ節ってのはそつたに難しげないがら東京の人でもすぐ覚えるんだ。ところが聴けば「秋田の秋田おぼこ節」でねんだ。同じ「あ」でも違うんだすよ。俗に言う標準語でしか喋れない人ど、こつちで方言を使ってる人のどは違



詩 修

詩人が描く池田修三の言葉⑥ 江國香織

池田修三の版画に寄せた、詩人たちの書き下ろし作品



「ゆこうよ」1984年

階段の途中の国

知っていると思うけど
誰も過去には戻れない
後悔してもムダムダムダ
でもすこしなら
階段の途中の国にかくまってあげる
かわいそうな大人たち
はだしに慣れていないのね
孤独に慣れていないのね
自由に慣れていないのね
さあ ちゃんと目をあけて
立派にふるまってちょうだい
心が丈夫になる場所に
つれていってあげるから
忘れちゃったの？ 大人たち
私たちはいつもここにいた

えくに かおり
江國香織

東京生まれ。1989年『409ラドクワ』で第1回フェミナ賞受賞。2002年『泳ぐのに、安全でも適切でもありません』で第15回山本周五郎賞、2004年『号泣する準備はできていた』で第130回直木賞を受賞。2010年『真昼なのに香い部屋』で第5回中央公論文芸賞、2012年『犬とハモニカ』で第38回川端康成文学賞を受賞。他、著書多数。

池田修三

1922年秋田県にかほ市象潟町生まれ。版画家。秋田県内の高等学校美術科教諭を退職後、1955年に上京し版画に専念する。主テーマは子どもたちの情景で、晩年は風景画も手がける。作品は企業カレンダーや銀行の通帳、「広報さきかた」の表紙などにも使われる。2004年82歳で死去。



日々の生活の苦しさを紛らわすために生まれたといわれる民謡。現代も、かつてとは形を変えながらも、苦しいこと、悲しいことは尽きません。民謡王国といわれる秋田県は、その唄の数が多いぶん、辛いことも多かったのだと思います。
しかし、そのたびに民謡に触れ、その時間だけは何もかも忘れて心から楽しめる。唄声から勇気をもらったり、歌詞の情景に癒されたり、唄を通して出会いが生まれたり……。そうやって、秋田の人たちは「この土地で生きることを後押ししてくれるもの」として、民謡を聴き、唄い継いできたのかもしれませんが、きつと、今日もどこかで唄声が響いています。

航空

東京(羽田)⇄秋田 ANA/JAL … 約65分
 大阪(伊丹)⇄秋田 ANA/JAL … 約80分
 札幌(新千歳)⇄秋田 ANA/JAL … 約55分
 名古屋(中部国際)⇄秋田 ANA … 約80分
 【リムジンバス】秋田空港～秋田駅西口(約35分)
 東京(羽田)⇄大館能代 ANA … 約70分
 【リムジンバス】大館能代空港～大館市内(約55分)
 大館能代空港～北秋田市(鷹巣)(約15分)
 (ANA)0570-029-222 (JAL)0570-025-071



藤本流 のんびり飛行機の旅

車で丸1日かけて秋田へ行くことも多い僕にとって、伊丹空港から秋田空港までたったの80分。って、まるでワープ。しかも早割の安い航空券使ったら、大阪～東京の新幹線代と変わらない安さ！関西から意外に行きやすいのです。

新日本海フェリー

北行 敦賀(10:00)⇄新潟(22:30)⇄秋田(翌5:50)⇄苫小牧東(17:20)
 南行 苫小牧東(19:30)⇄秋田(翌7:45)⇄新潟(15:30)⇄敦賀(翌5:30)

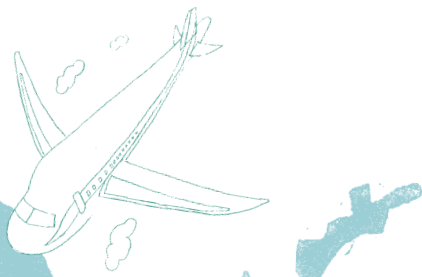
●秋田港から秋田市街へは車で約30分。
 (秋田中央交通バスのご利用も可能)

〈秋田フェリーターミナル〉
 018-880-2600
 運航スケジュールは必ずお問合せください。

高速バス

仙台⇄秋田 … 3時間35分(仙秋号)
 東京⇄秋田 … 8時間30分(フローラ号) 深夜バス
 横浜⇄秋田 … 9時間40分(ドリーム秋田・横浜号) 深夜バス

〈秋田中央交通(フローラ号・仙秋号)〉018-823-4890
 〈JRバス東北秋田支店(ドリーム秋田・横浜号)〉018-862-9461
 ※秋田市以外の市町村を往復する便も複数あります。



秋田新幹線 こまち

仙台⇄秋田
 最速2時間5分
 大宮⇄田沢湖
 最速2時間21分
 東京⇄秋田
 最速3時間37分

〈JR東日本テレフォンセンター〉
 050-2016-1600



福田流 のんびり新幹線の旅

新幹線「こまち」だと東京から3時間半ほどで秋田まで。お弁当食べて少し寝て、盛岡で青森行との切り離し作業で目が覚めて、本でも読んでまたウトウトしていると今度は大曲でのスイッチバックで目が覚めて、そこからは約30分ほどで秋田到着。簡単には寝させない新幹線、それが「こまち」。2013年3月からは新型車両となり、ますます便利に。額の前で手で三角を作り、コマチ！というのを流行らせたい。

自動車(高速道路利用)

仙台⇄秋田 … 約3時間30分
 東京⇄秋田 … 約7時間30分

〈日本道路交通情報センター(秋田センター)〉
 050-3369-6605

non-biri akita access map

秋田市

p4～秋田市民市場

【自動車】 秋田駅 | (3分)
 秋田市民市場 (駐車場有/400台)
 【徒歩】 秋田駅 | (5分)
 秋田市民市場

協同組合 秋田市民市場
 秋田市中通四丁目7-35
 TEL 018-833-1855

大仙市協和

裏表紙:唐松神社

【自動車】 秋田駅 | (40分)
 秋田駅～唐松神社
 【電車】 秋田駅 | (25分)
 羽後境駅 | (徒歩15分)
 唐松神社

唐松神社
 秋田県大仙市協和境下台84
 TEL 018-892-3002

下戸式秋たんぼう:各地夏祭り

①[能代市] 能代七夕「天空の不夜城」
 毎年8月3日～4日
 (p57～/最寄り駅:JR能代駅)
 会場:能代駅前・市街地

②[秋田市] 秋田竿燈まつり
 毎年8月3日～6日
 (p57～/最寄り駅:JR秋田駅)
 会場:秋田市竿燈大通り

③[湯沢市] 七夕絵どうろうまつり
 毎年8月5日～7日
 (p57～/最寄り駅:JR湯沢駅)
 会場:湯沢市中心商店街



池田修三

過去最大規模の展覧会

秋田県立美術館にて開催決定



「カナリヤ」1994年

センチメンタルの青い旗

秋田のたからもの、
全国へ。
そしてまた、秋田に。

2014年

10月18日[土] ▶ 26日[日] 10時～18時 **入場無料**

秋田県立美術館 1階 県民ギャラリー

秋田県秋田市中通1丁目4-2

『センチメンタル宣言』展覧会は終了いたしました。たくさんのご来場ありがとうございました。『ワンダフル前夜〜』展覧会も終了予定です。

会場：エリアなかいち特設ステージ【入場無料】
出演：齋藤一樹（にかほ市象潟郷土資料館館長）
藤本智士（本展プロデューサー、『のんびり』編集長）
ゲスト：伊藤綾子（フリーアナウンサー）

会場：エリアなかいち特設ステージ【入場無料】
出演：倉本美津留（放送作家、ミュージシャン）
藤本智士（本展プロデューサー、『のんびり』編集長）
※当日が悪天候の場合、会場を変更する場合があります

【お問合せ先】のんびり合同会社 〒010-0021 秋田市榎山登町7-14 [TEL・FAX] 018-832-8086 info@non-biri-go-do.jp

文化を旅する

http://common.pref.akita.lg.jp/kokubunsai2014/

第29回 国民文化祭・あきた2014
平成26年10月4日(土)～11月3日(月・祝)
発見・創造 650コノ秋田

20年ほど前、映画「寝盗られ宗介」のロケで角館に滞在していた。雪の街なかを共演者たちと飲みにかけていたっけ。お世話になった主演の原田芳雄さんも若松孝二監督も、もうこの世にはいない。

今回久しぶりに秋田を訪れ、西馬音内盆踊りを観ることができた。死者の装束で踊り、晴れやかで色っぽい唄が太鼓や笛と共に響き渡る。

日常と非日常、生と死が入り交じる、とてつもない演劇空間に身体が反応した。

そうだ、これこそが芸能の本質。

歌詞の中に「出雲の神様はるばるやってきた」と聞こえてきた。秋田の言葉が、方言が次々と身体に飛び込んで来る。何故だ?! 出雲の地を故郷に持つこの身体はなかに、遠く、この国が成り立つ遙か以前から伝わる音が、出羽と出雲を分けずに入ってくるからだろうか？

写真：佐野史郎(さのしろう) / 俳優

1955年島根県生まれ。劇団シェークスピアシアター、劇団状況劇場を経て、86年「夢のように眠りたい」で映画主演デビュー。その後、TVドラマ「ずっとあなたが好きだった」(92)の冬彦さん役で注目を浴び、舞台・映画・TVとジャンルを問わず活躍。小説・エッセイ・音楽・朗読・写真など幅広い活動を続けている。



裏表紙

佐野史郎
唐松神社

プレゼント No.1

秋田市民市場 セット

誌面にも登場した市民市場のごはんが進むセットです。(内容は隔いてからのお楽しみ)

プレゼント No.2

08COFFEE

オリジナルパッケージです。

『のんびり』をお読みいただきありがとうございます。アンケートにご協力ください。

「のんびり」は人を基軸に「あきたのほんとう」をまっすぐ伝えるマガジンです。本号へのご感想、今後取り上げてほしいテーマなどのご要望、ご提案を、ハガキか「のんびり公式ウェブサイト」のアンケートページからお寄せください。抽選で「のんびり」オリジナルプレゼントをお贈りいたします。抽選メッチは2014年10月31日(金)。当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

※個人情報はプレゼントをお届けするために利用し、その目的以外の利用はいたしません。

プレゼントの応募は終了いたしました

1名様

3名様

のんびり公式ウェブサイトからのご応募の場合 <http://non-biri.net>

ハガキでご応募の場合

①郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、メールアドレス ②本誌の入手先
③今後とりあげてほしい話題 ④今号で面白かった記事(複数回答可) ⑤ご感想 ⑥ご希望のプレゼント
以上をハガキに明記の上、ご応募ください。

宛先は 〒010-0021 秋田市榎山登町7-14 のんびり合同会社 のんびり編集部

のんびり

2014.Autumn 10
2014年9月24日発行

STAFF

編集長 藤本智士 (Re:S)

編集 矢吹史子
田宮 慎
今井春佳
山口はるか (Re:S)

アートディレクション&デザイン 堀口 努 (underson)

デザイン 澁谷和之 (澁谷デザイン事務所)

写真 浅田政志
鍵岡龍門
船橋陽馬
高橋 希

題字・イラストレーション スダタカミツ

似顔絵 田渕志織

動画 近藤康洋(mel digital co.,Ltd)
佐藤 努 (mel digital co.,Ltd)

発行 秋田県
(観光文化スポーツ部観光戦略課あきたびじょん室
Tel 018-860-1073)

編集 のんびり合同会社 のんびり編集部
〒010-0021 秋田市榎山登町7-14
Tel/Fax 018-832-8086
Mail info@non-biri-go-do.jp

印刷・製本 秋田活版印刷株式会社

*乱丁・落丁誌はお取り替えます。
*本誌内容の無断転載、記載、複写はご遠慮ください。
*本誌データは2014年8月30日現在の情報です。
*あらかじめご了承ください。
*本誌は「あきたびじょん」コミュニケーション媒体企画制作業務委託業務で制作いたしました。
©nonbiri all rights reserved.

next issue

次号 2014年12月発行予定

「のんびり公式ウェブサイト」公開中!

<http://non-biri.net>



discover AKITA

佐野史郎 × 唐松神社